

【】 分解

[問題]

1 種類の物質が 2 種類以上の物質に分かれる化学変化を何というか。

(京都府)

[解答欄]

[解答]分解

[解説]

1 種類の物質が 2 種類以上の物質に分かれる化学変化を分解という。

例えば、酸化銀を加熱すると、(酸化銀)→(酸素)+(銀) という分解反応が起こる。

また、炭酸水素ナトリウムを加熱すると、

(炭酸水素ナトリウム)→(炭酸ナトリウム)+(水)+(二酸化炭素) という分解反応が起こる。

[問題]

水の電気分解のように、物質が分解したといえるものを、次のア～エから 1 つ選べ。

ア 酸化銀を加熱すると、酸素が発生し、銀が残った。

イ 食塩水を加熱すると、水が蒸発し、食塩の結晶が出てきた。

ウ 氷を加熱すると、とけて水になった。

エ 銅を加熱すると、酸化銅ができた。

(京都府)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

ア：酸化銀という 1 種類の物質が酸素と銀に分かれる化学変化なので分解である。

イ：水は液体→固体に状態変化しているが、食塩は変化していない。化学変化は起きていない。

ウ：氷(固体)→水(液体)の状態変化で、化学変化ではない。

エ：(銅)+(酸素)→(酸化銅) の反応が起こる。2 種類の物質が結びついて 1 種類の物質ができる化学変化なので、化合である。

[問題]

1 種類の物質が 2 種類以上の物質に分かれる変化がおきたのはア～エのどれか。

ア 熱した銅線を硫黄の蒸気の中に入れると銅線は黒っぽくなった。

イ 鉄の板を熱して高温にすると液体になった。

ウ 炭酸水素ナトリウムを加熱すると気体が発生した。

エ 食塩水を蒸留すると純粋な水が得られた。

(北海道)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

ア：(銅)+(硫黄) \rightarrow (^{りゅうかどう}硫化銅) の化学変化なので化合である。

イ：固体 \rightarrow 液体の状態変化である。化学変化ではない。

ウ：(炭酸水素ナトリウム) \rightarrow (炭酸ナトリウム)+(水)+(二酸化炭素) と 1 種類の物質が 3 つの物質に分かれる化学変化なので分解である。

エ：化学変化ではない。

[問題]

分解がおこるものはどれか、次のア～エの中から 1 つ選び、その記号を書け。

ア エタノールと水の混合物を試験管に入れて加熱する。

イ うすい水酸化ナトリウム水溶液とうすい塩酸を混ぜあわせる。

ウ 鉄粉と硫黄粉を混ぜあわせて試験管に入れて加熱する。

エ 炭酸水素ナトリウムを試験管に入れて加熱する。

(青森県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

ア：液体 \rightarrow 気体 \rightarrow 液体の状態変化が起こるが、化学変化ではない。

イ：(水酸化ナトリウム)+(塩酸) \rightarrow (水)+(塩化ナトリウム) の化学変化(中和)がおこる。

ウ：(鉄)+(硫黄) \rightarrow (^{りゅうかてつ}硫化鉄) の化学変化(化合)がおこる。

エ：(炭酸水素ナトリウム) \rightarrow (炭酸ナトリウム)+(水)+(二酸化炭素) と 1 種類の物質が 3 つの物質に分かれる化学変化なので分解である。

[問題]

物質が分解する化学変化は次のどれか，すべて選んで記号を書け。

ア 銅を熱したら酸化銅になった

イ 水を熱したら水蒸気になった

ウ 酸化銀を熱したら銀と酸素になった

エ 塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えたら，塩化ナトリウムと水ができた

オ 空気が入らないようにして木を熱したら，燃える気体などが出て木炭ができた

(秋田県)

[解答欄]

[解答]ウ，オ

[問題]

水は水素と酸素に分解できる。このように，2種類以上の物質に分解できる物質は何と呼ばれているか。

(大阪府)

[解答欄]

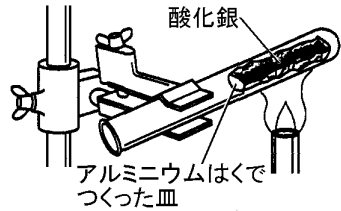
[解答]化合物

【】 酸化銀の分解

[分解後にできる物質]

[問題]

酸化銀をアルミニウムはくでつくった皿にのせ、試験管に入れて、図のような装置で加熱する実験をした。酸化銀の色が変わりはじめてから、炎を上げずに燃えている線香を試験管の中に入れて、線香の燃え方を観察した。その後、十分に加熱して酸化銀全体の色が変わったので、加熱をやめた。



- (1) 線香の燃え方はどのようになったか、書け。
- (2) アルミニウムはくの中に残っている性質は、電気を①(通し/通さず), みがくと光り, ②(たたいてもびない/たたくとのびる)。

(熊本県)

[解答欄]

(1)	(2)①	②
-----	------	---

[解答](1) 炎をあけて燃えた。 (2)① 通し ② たたくとのびる

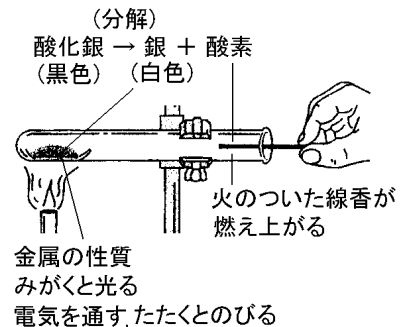
[解説]

酸化銀(Ag_2O)を加熱すると、

酸化銀→銀+酸素($2\text{Ag}_2\text{O} \rightarrow 4\text{Ag} + \text{O}_2$)の分解反応が
おこり、試験管内の物質は黒色から白色に変わる。
これは黒色の酸化銀が白色の銀に変化するためである。
銀(Ag)は金属であるので、①試験管の底でこすると
光る(金属光沢), ②電気を通す, ③たたくとのびる、
という性質をもっている。

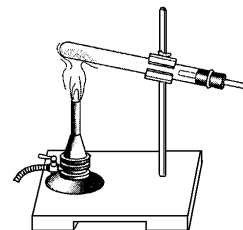
試験管内の物質の色が黒色から白色に変化し出した
とき、試験管の口の部分に火のついた線香を入れると、
線香は炎をあけて燃え上がるが、これは酸素(O_2)が発生したためである。

この実験のように、物質が別の物質に変わる変化を化学変化という。1種類の物質が2種類以上の物質に分かれる化学変化を分解という。分解の中でも、加熱することでおこるものをとくに熱分解という。



[問題]

乾いた試験管に酸化銀の粉末を入れ、一定時間加熱した後、粉末の質量を測定した。このとき①気体が発生し、②白色の固体が残った。



- (1) 下線部①の気体を化学式で書け。
(2) 下線部②の物質が金属であることを確かめる方法を1つ書け。
(福井県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) O_2 (2) 電気を通す。(みがくと光る。たたくとどのびる。)

[問題]

黒っぽい酸化銀の粉末を試験管に入れた。次に、試験管を一定時間加熱したのち、試験管内の物質の質量を測定する操作をくり返し行った。

- (1) 加熱のあと、試験管からとり出した物質は白くなっていた。この物質の化学式を書け。
(2) (1)の物質は加熱前とは異なる性質を持っている。その性質を1つあげよ。
(長崎県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) Ag (2) 電気を通す(こすると銀色に光る、たたくとうすくのびる)

[解説]

酸化銀(Ag_2O)を加熱すると、酸化銀→銀+酸素($2Ag_2O \rightarrow 4Ag + O_2$)の分解反応が起こり、試験管内の物質は黒色から白色に変わる。これは黒色の酸化銀が白色の銀に変化するためである。銀(Ag)は金属であるので、①試験管の底でこすると光る(金属光沢)、②電気を通す、③たたくとどのびる、という性質をもっている。

[問題]

試験管に酸化銀を入れ加熱したとき、加熱後の試験管に残った物質の性質に当たるものを、次のア～エから選べ。

- ア 磁石に引きつけられる。 イ アルカリ性を示す。
ウ 水に溶けやすい。 エ 電気を通す。

(群馬県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

電気を通す，こすると光る(金属光沢)，たたくとのびるといのは金属に共通の性質であるが，磁石に引きつけられるかどうかは金属によって異なる。鉄(Fe)は磁石に引きつけられるが，銀(Ag)や銅(Cu)やアルミニウム(Al)は引きつけられない。

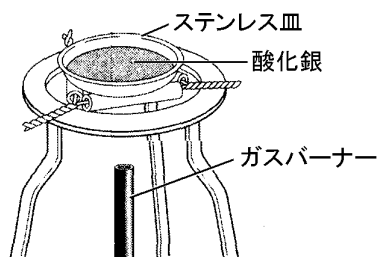
[問題]

図のようにステンレス皿の上で酸化銀を十分に熱した。実験で得られた銀が，もとの酸化銀とは異なる物質であることを確かめるため，金属製の薬品さじで強くこすってみた。その結果を簡単に答えよ。

(島根県)

[解答欄]

[解答]金属光沢がでた。



[問題]

酸化銀の加熱によって発生した気体の性質を調べるため，気体を集めた試験管の栓をとり，()ことから，この気体は酸素であることがわかった。文中の()に入るものはどれか。ア～エのうちから最も適当なものを1つ選び，その符号を書け。

- ア 石灰水を入れてふると，石灰水が白くにごった。
- イ 火のついたマッチを近づけると，気体が爆発して燃えた。
- ウ 炎を上げずに燃えているせんこうを入れると，せんこうが炎を上げて燃えた。
- エ 赤インクをつけた紙を入れると，インクの色が消えた。

(千葉県)

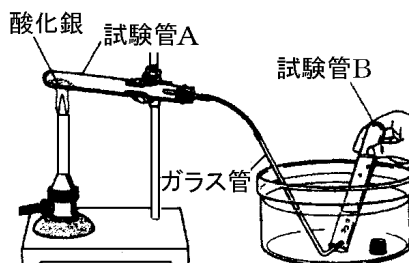
[解答欄]

[解答]ウ

[解説]酸化銀の加熱によって発生する気体は酸素である。酸素は物が燃えるのを助けるはたらきがあり，火のついた線香を近づけると線香は燃え上がる。酸素自身は燃えない。アは二酸化炭素，イは水素，ウは酸素，エは漂白作用がある塩素である。

[問題]

酸化銀を試験管 A に入れ、加熱し、発生した気体を試験管 B に集めた。①この実験で発生した気体は何か。ことばで書け。②また、発生した気体は、図のように、水とおきかえて集めることのできる。この集め方は発生した気体のどのような性質によるためか。簡潔に説明せよ。



(岐阜県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 酸素 ② 水にとけにくい性質

[解説]

上方置換じやうほうちかかんや下方置換かほうは空気が混じるので、酸素など水にとけにくい気体は水上置換すいじやうで集める。酸化銀が黒っぽい色から白っぽい色に変わるところに酸素が発生し始めるが、初めに出てきた気体には、試験管内にあった空気が混じっているので、しばらくしてから出てきた気体を水上置換法で集める。

[問題]

酸化銀を試験管 A に入れて加熱した。酸化銀が黒っぽい色から白っぽい色に変わり、気体が発生し始めた。はじめに出てきた気体は集めずに、しばらくしてから出てきた気体を水上置換法で試験管 B に集め、水中で栓をしてとり出した。この実験で、はじめに出てきた気体を集めなかったのはなぜか。理由を簡潔に書け。

(千葉県)

[解答欄]

--

[解答]はじめに出てきた気体には、試験管 A 内にあった空気が含まれているから。

[化学反応式など]

[問題]

酸化銀(Ag_2O)を加熱したときに起こる変化を、化学反応式で書け。

(静岡県)(千葉県)

[解答欄]

[解答] $2\text{Ag}_2\text{O} \rightarrow 4\text{Ag} + \text{O}_2$

[解説]

酸化銀を加熱すると、銀と酸素ができる。この反応をことばで表すと、「酸化銀→銀+酸素」となる。酸化銀は Ag_2O 、銀は Ag 、酸素は O_2 なので、まず、 $\text{Ag}_2\text{O} \rightarrow \text{Ag} + \text{O}_2 \cdots \textcircled{1}$ とおく。

Ag : 左辺は 2 個、右辺は 1 個で数が合わない。 O : 左辺は 1 個、右辺が 2 個で、数が合わない。

Ag 、 O の両方とも数が合わないが、ここでは、まず O の数をあわせる。(Ag から合わせてもよいが、少し面倒) 少ない方の $\textcircled{1}$ の左辺の Ag_2O を 2 倍して、

$2\text{Ag}_2\text{O} \rightarrow \text{Ag} + \text{O}_2 \cdots \textcircled{2}$

すると、 Ag の個数が合わない(左辺 $2 \times 2 = 4$ 個、右辺 1 個)。

そこで、少ない方の $\textcircled{2}$ の右辺の Ag を 4 倍して、 $2\text{Ag}_2\text{O} \rightarrow 4\text{Ag} + \text{O}_2$

すると、 Ag : 左辺 $2 \times 2 = 4$ 個、右辺 4 個で数が合う。 O : 左辺 2 個、右辺 2 個で数が合う。

[問題]

ステンレス皿の上で酸化銀を十分に熱した。実験の化学変化を、モデル図で表せ。酸化銀は $\bigcirc\bullet\bullet$ 、酸素は $\bullet\bullet$ 、銀は \bigcirc とする。

(島根県)

[解答欄]

[解答] $\bigcirc\bullet\bullet \quad \bigcirc\bullet\bullet \rightarrow \bigcirc \quad \bigcirc \quad \bigcirc \quad \bigcirc + \bullet\bullet$

[解説]

酸化銀 $\bigcirc\bullet\bullet$ が分解して酸素が発生する。酸素は酸素原子 2 個で 1 個の酸素分子 $\bullet\bullet$ をつくっている。酸素分子 $\bullet\bullet$ 1 個を生成するためには、酸化銀 $\bigcirc\bullet\bullet$ が 2 個必要である。したがって、 $\bigcirc\bullet\bullet \quad \bigcirc\bullet\bullet \rightarrow \bullet\bullet + (\quad)$ となる。酸化銀 $\bigcirc\bullet\bullet$ 2 つから酸素 $\bullet\bullet$ をのぞくと銀原子 \bigcirc が 4 個残る。銀は酸素などと違って分子という単位をとらないので、()内は「 $\bigcirc \quad \bigcirc \quad \bigcirc \quad \bigcirc$ 」と銀原子 4 個で表す。

[問題]

酸化銀を加熱すると気体が発生し、後には白い物質が残った。実験の前後の質量について最も適当なものを、次のア～エから1つ選び記号で答えよ。

- ア 気体が発生したので、白い物質の質量はもとの酸化銀の質量より大きい。
- イ 気体は質量がないので、もとの酸化銀と白い物質の質量は同じである。
- ウ 発生した気体と白い物質の質量の和は、もとの酸化銀の質量と同じである。
- エ もとの酸化銀の質量に、発生した気体の質量を加えると白い物質の質量と同じになる。

(沖縄県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

酸化銀→銀+酸素($2\text{Ag}_2\text{O}\rightarrow 4\text{Ag}+\text{O}_2$)の分解反応がおこるが、質量保存の法則により、(酸化銀の質量)=(銀の質量)+(酸素の質量)が成り立つ。

[問題]

酸化銀を加熱すると気体が発生し、後には白い物質が残った。発生した気体、残った白い物質、もとの酸化銀の3つの物質について正しいものを、次のア～エから1つ選び記号で答えよ。

- ア 3つの物質は別の物質である。
- イ 酸化銀と白い物質は同じ物質である。
- ウ 酸化銀と気体が化合して白い物質になった。
- エ 酸化銀と白い物質が化合して気体が発生した。

(沖縄県)

[解答欄]

[解答]ア

[解説]

原子の組み合わせが変わると別の分子になるので、性質も異なってくる。

[問題]

酸化銀を加熱すると気体が発生し、後には白い物質が残った。この実験において、酸化銀の変化は2通りの表し方ができる。この2通りの表し方の組合せとして正しいものを、次のア～エから1つ選び記号で答えよ。

ア 化合と酸化 イ 化合と還元 ウ 分解と酸化 エ 分解と還元

(沖縄県)

[解答欄]

[解答]エ

[解説]

酸化銀 Ag_2O は酸素を失って銀 Ag になるが、酸素を失う反応は還元である。

[計算問題]

[問題]

黒っぽい酸化銀の粉末 2.90g を試験管に入れた。次に、試験管を一定時間加熱したのち、試験管内の物質の質量を測定する操作をくり返し行った。表は、加熱の回数と加熱後の試験管内の物質の質量をまとめたものである。なお、5回目以降は、加熱をくり返しても質量の変化はなかった。その後、試験管内の物質をとり出し、その性質を調べた。加熱前の酸化銀に含まれていた酸素の質量は何gか。

加熱の回数	加熱前	1回	2回	3回	4回	5回
加熱後の物質の質量[g]	2.90	2.81	2.75	2.72	2.70	2.70

(長崎県)

[解答欄]

[解答]0.20g

[解説]

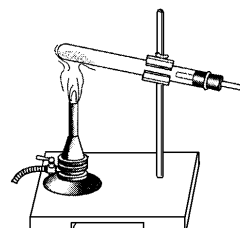
酸化銀を加熱すると、発生した酸素の分だけ質量は小さくなる。「加熱→質量の測定」をくり返すと、加熱によって発生した酸素の分だけ質量がだんだん小さくなっていくが、やがて加熱しても質量の変化がなくなる(この実験では4回目以降)。これは酸化銀がすべて分解されてしまったためである。このことによって、酸化銀が完全に分解されたことを確認できる。

したがって、この実験では酸化銀 2.90g を完全に分解してできる銀の質量は 2.70g であることがわかる。この分解反応は、(酸化銀)→(銀)+(酸素)なので、

質量保存の法則から、(酸化銀の質量)=(銀の質量)+(酸素の質量) が成り立つ。
 よって、(酸素の質量)=(酸化銀の質量)-(銀の質量)=2.90-2.70=0.20g となる。

[問題]

乾いた試験管に 5.80g の酸化銀の粉末を入れ、一定時間加熱した後、粉末の質量を測定した。この操作を繰り返したところ、加熱の回数と試験管内の加熱後の粉末の質量の関係は表のようになった。また、このとき気体が発生し、白色の固体が残った。

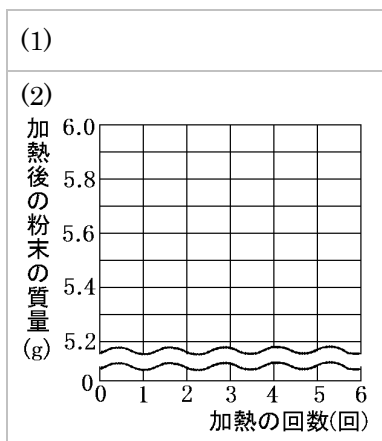
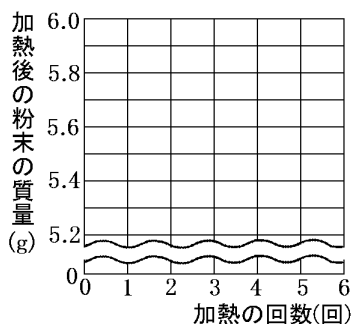


加熱の回数(回)	0	1	2	3	4	5
加熱後の粉末の質量(g)	5.80	5.58	5.48	5.42	5.40	5.40

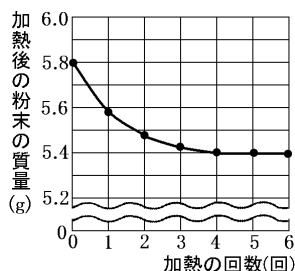
- (1) 実験の結果から、加熱の回数と加熱後の粉末の質量の関係を表すグラフを右に書け。
 (2) 酸化銀中の銀の質量は酸化銀全体の質量の何%か。
 答えは小数第1位を四捨五入して整数で書け。

(福井県)

[解答欄]



[解答](1) (2) 93%



[解説]

「加熱→質量の測定」をくり返すと、4回目以降は質量が5.40gで一定になっている。これは、試験管の中の酸化銀がすべて分解されて、もうそれ以上反応が起こらなくなったためである。このことから、酸化銀5.80gの中に含まれる銀は5.40gであることがわかる。

したがって、酸化銀中にしめる銀の質量の割合は、 $5.40(g) \div 5.80(g) \times 100 = \text{約 } 93(\%)$ である。

[問題]

酸化銀の黒い粉末5.8gをステンレス皿に入れて熱した後、よく冷やしてから質量をはかった。さらに、再び熱して、よく冷やしてから質量をはかった。この操作を繰り返して、ステンレス皿の中の物質の質量の変化を調べた。下の表はその結果をまとめたものである。この実験で、酸化銀の黒い粉末は、少しずつ白い固体に変化し、3回目に熱した後は、すべて白い固体になり、それ以上変化しなかった。1回目の加熱の後、ステンレス皿の中の物質5.6gのうち、分解せずに残っている酸化銀は何gであったと考えられるか。

熱した回数	0	1	2	3	4	5
加熱後のステンレス皿の中の物質の質量[g]	5.8	5.6	5.5	5.4	5.4	5.4

(徳島県)

[解答欄]

[解答]2.9g

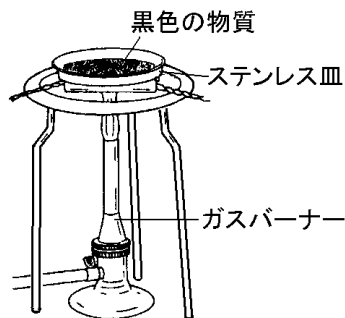
[解説]

「加熱→質量の測定」をくり返すと、3回目以降は質量が5.4gで一定になっている。これは、試験管の中の酸化銀がすべて分解されて、もうそれ以上反応が起こらなくなったためである。

この分解反応は、(酸化銀)→(銀)+(酸素)なので、質量保存の法則から、(酸化銀の質量)=(銀の質量)+(酸素の質量)が成り立つ。よって、(酸化銀の質量)=5.8g、(銀の質量)=5.4g、(酸素の質量)= $5.8 - 5.4 = 0.4g$ ・・・①となる。1回目の加熱によって質量は $5.8 - 5.6 = 0.2g$ 減少しているが、これは酸素が0.2g発生したためである。①より、酸化銀5.8gが分解したとき0.4gの酸素が発生するので、酸素が発生するときに反応した酸化銀は $5.8 \div 2 = 2.9g$ であることがわかる。したがって、分解せずに残っている酸化銀は、 $5.8 - 2.9 = 2.9g$ である。

[問題]

右の図のような装置で、2.00g のある黒色の物質をステンレス皿に広げ、加熱した。冷えてから、ステンレス皿中の物質の質量を測定した。次に、ふたたび加熱し冷えてから質量を測定する操作を3回くり返した。下の表はこれらの結果を示したものである。この実験により、はじめ黒色だった物質は、気体を発生しながら分解し、やがてすべて白色の物質にかわっていった。次の問いに答えよ。



測定した回数	1回目	2回目	3回目	4回目
加熱後の物質の質量(g)	1.92	1.88	1.86	1.86

- 分解した黒色の物質の質量を a 、白色の物質の質量を b 、発生した気体の質量を c としたとき、 a 、 b 、 c の関係を式で書け。
- 表の値から、分解した黒色の物質の質量と発生した気体の質量の比を、整数の比で書け。
- 1回目の加熱後、反応していない黒色の物質は何 g か、小数第三位を四捨五入して書け。

(青森県)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)
-----	-----	-----

[解答](1) $a=b+c$ (2) $100 : 7$ (3) $0.86g$

[解説]

(1) 質量保存の法則から、(質量 a)=(質量 b)+(質量 c) が成り立つ。

(2) 「加熱→質量の測定」をくり返すと、3回目以降は質量が $1.86g$ で一定になっている。これは、試験管の中の黒色の物質がすべて分解されて、もうそれ以上反応が起こらなくなったためである。

$$(\text{質量 } c) = (\text{質量 } a) - (\text{質量 } b) = 2.00 - 1.86 = 0.14g$$

よって、(黒色の物質の質量) : (気体の質量) = (質量 a) : (質量 c) = $2.00 : 0.14 = 100 : 7$

(3) 1回目の加熱で発生した気体は、 $2.00 - 1.92 = 0.08g$ である。

このときに反応した黒色の物質の質量を xg とする。

(黒色の物質の質量) : (気体の質量) = $100 : 7$ なので、 $100 : 7 = x : 0.08$

比の内項の積は外項の積に等しいので、 $x \times 7 = 100 \times 0.08$

ゆえに、 $x = 100 \times 0.08 \div 7 = 1.14$ である。

よって、1回目の加熱後、反応していない黒色の物質は $2.00 - 1.14 = 0.86g$ である。

[問題]

酸化銀の粉末を十分に加熱すると、銀と酸素が得られる。酸化銀 5.8g を用いたとき得られる酸素は 0.4g である。酸化銀 14.5g からは、何 g の銀が得られるか、求めよ。ただし、酸化銀はすべて反応するものとする。

(宮城県)

[解答欄]

[解答]13.5g

[解説]

酸化銀の粉末を加熱すると、(酸化銀) \rightarrow (銀)+(酸素)の分解反応が起こる。質量保存の法則より、化学反応の前後で質量の総量は同じなので、(酸化銀の質量)=(銀の質量)+(酸素の質量)の関係が成り立つ。酸化銀 5.8g を用いたときに得られる酸素は 0.4g なので、 $5.8=(銀の質量)+0.4$ となり、(銀の質量) $=5.8-0.4=5.4(g)$ となる。

酸化銀 14.5g から得られる銀を x g とすると、(酸化銀の質量):(銀の質量)は一定なので、 $14.5 : x = 5.8 : 5.4$ 比で内項の積と外項の積は等しいので、 $x \times 5.8 = 14.5 \times 5.4$ よって、 $x = 14.5 \times 5.4 \div 5.8 = 13.5(g)$

[問題]

20g の試験管に 4.5g の酸化銀を入れて、試験管全体の質量を測定した。次に、この試験管をじゅうぶん加熱して酸化銀をす

	加熱前	加熱後
試験管全体の質量(g)	24.5	24.2

べて分解した後に、再び試験管全体の質量を測定した。表は、その結果を示したものである。表をもとにすると、酸化銀の分解により 1.0g の酸素を発生させるには、酸化銀は何 g 必要と考えられるか。ただし、酸化銀がすべて分解する以外には反応は起こらないものとする。

(静岡県)

[解答欄]

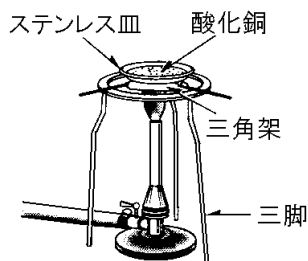
[解答]15g

[解説]

酸化銀 4.5g を加熱すると、 $24.5-24.2=0.3(g)$ 質量が減少することから、酸化銀 4.5g から酸素 0.3g が発生することがわかる。酸化銀 x g から酸素 1.0g が発生するものとする、 $x : 1 = 4.5 : 0.3$ 比の外項の積は内項の積に等しいので、 $x \times 0.3 = 1 \times 4.5$ よって、 $x = 4.5 \div 0.3 = 15(g)$

[問題]

右の図のように、酸化銀の黒い粉末をステンレス皿に入れて加熱したあと、よく冷やしてから質量をはかった。この操作を繰り返しおこない、ステンレス皿の中の物質の質量の変化を調べたところ、はじめは質量が減少したが、やがて減少しなくなった。このときのステンレス皿の中の物質はすべて銀になっていた。次の表 I は、酸化銀の粉末の質量を 2.90g、4.35g、5.80g にしてそれぞれ実験し、加熱後の物質の質量が減少しなくなったときの物質の質量をまとめたものである。



(表 I)

酸化銀の粉末の質量(g)	2.90	4.35	5.80
加熱後の物質の質量が減少しなくなったときの物質の質量(g)	2.70	4.05	5.40

(表 II)

物質名	酸化銀	銀	酸素
モデル	●○○	●	○○

- (1) 実験の結果から、この化学変化に関わる物質の質量には、どのような関係があると考えられるか。次のア～エのうち、最も適当なものを 1 つ選んで、その記号を書け。
 - ア 酸化銀が完全に分解して発生する酸素の質量は、酸化銀の質量を変えても変化しない。
 - イ 酸化銀が完全に分解して生成する銀の質量は、加熱前の酸化銀の質量と比例しない。
 - ウ 酸化銀が完全に分解して生成する銀の質量と、発生する酸素の質量の比は一定でない。
 - エ 酸化銀が完全に分解して発生する酸素の質量と、加熱前の酸化銀の質量の比は一定である。
- (2) 実験で用いた酸化銀は、すべて銀原子と酸素原子の数が 2 : 1 の割合で結びついた化合物である。上の表 II は、銀原子を●、酸素原子を○で表し、酸化銀、銀、酸素をモデルで表したものである。反応の前後で全体の原子の数が変わらないことから、酸化銀を加熱して分解したときに、1000 個の銀原子が単体となって生じたとするとき、酸素分子は何個生じたと考えられるか。
- (3) 酸化銀の粉末 8.70g を加熱すると、ステンレス皿の中の物質の質量は 8.30g になった。このとき、分解せずに残っている酸化銀は何 g と考えられるか。

(香川県)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)
-----	-----	-----

[解答](1) エ (2) 250 個 (3) 2.90g

[解説]

(2) 酸化銀が分解するときの化学反応式は、 $2\text{Ag}_2\text{O} \rightarrow 4\text{Ag} + \text{O}_2$ である。「 4Ag 」は銀原子 4 個を表し、「 O_2 」は酸素分子 1 個を表すので、(銀原子):(酸素分子)=4:1 である。したがって、銀原子が 1000 個のとき、酸素分子は、 $1000 \div 4 = 250$ (個)である。

(3) 「酸化銀の粉末 8.70g を加熱すると、ステンレス皿の中の物質の質量は 8.30g になった」ので、発生した酸素は、 $8.70 - 8.30 = 0.40$ (g)である。

表 I より、酸化銀 2.90g が完全に分解すると、 $2.90 - 2.70 = 0.20$ (g)減少するので、酸化銀 2.90g から酸素が 0.20g 発生することがわかる。

したがって、酸素が 0.40g 発生するとき、分解した酸化銀は、 $2.90 \times 2 = 5.80$ (g)である。

よって、分解せずに残っている酸化銀は、 $8.70 - 5.80 = 2.90$ (g)である。

【】 炭酸水素ナトリウムの分解

[分解反応]

[問題]

炭酸水素ナトリウム、酸化銀をそれぞれ加熱すると、どちらも気体が発生し、それぞれの物質は、別の物質になっていた。炭酸水素ナトリウムを加熱したときは、水もできた。このように、1種類の物質が2種類以上の物質に分かれる化学変化を()という。

(宮崎県)

[解答欄]

[解答]分解

[解説]

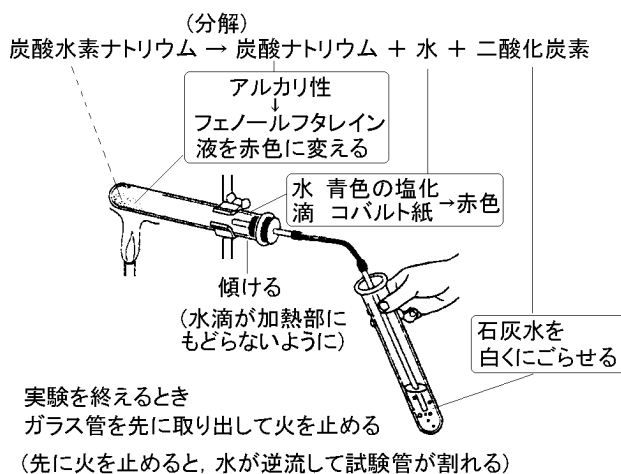
炭酸水素ナトリウム(NaHCO_3)を加熱すると、分解反応が起こり、炭酸ナトリウム(Na_2CO_3)、水(H_2O)、

二酸化炭素(CO_2)ができる。

発生した水(水蒸気)は試験管の口付近で冷えて液体(水滴)になり付着する。水であることを確認するためには塩化コバルト紙を使う。水にふれると青色の塩化コバルト紙は赤色に変化する。

二酸化炭素は石灰水を使って確認する。二酸化炭素を石灰水の中に通すと、石灰水は白くにごる。

試験管の加熱部分では、炭酸水素ナトリウムが炭酸ナトリウムという別の物質に変化して残る。



[問題]

炭酸水素ナトリウムをかわいた試験管Aに入れ加熱した。①発生した気体を集めた試験管Bに石灰水を入れてよく振ると、石灰水は白くにごった。また、試験管Aの口近くの内側には液体がついていた。②この液体に青色の塩化コバルト紙をつけると、塩化コバルト紙は赤色に変化した。下線部①と下線部②の結果からは、炭酸水素ナトリウムに3種類の原子が含まれていることが分かる。この3種類の原子を、それぞれ原子の記号で書け。

(愛媛県)

[解答欄]

--

[解答]C, H, O

[解説]

①で石灰水を白くにごらせる気体は二酸化炭素(CO₂)である。二酸化炭素は炭素(C)と酸素(O)原子から成り立っている。②で塩化コバルト紙を赤色に変えた物質は水(H₂O)である。水は水素(H)と酸素(O)原子から成り立っている。以上、①、②より、炭酸水素ナトリウムには炭素(C)、酸素(O)、水素(H)の3つの原子が含まれていることがわかる。そのほかに、ナトリウム原子(Na)も含むが、①、②の結果だけからはNaを含むことは確認できない。

[問題]

次は、炭酸水素ナトリウムを加熱したときに起こる化学変化を化学反応式で表したものである。①、②にあてはまる化学式を、それぞれ書け。



(山形県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① NaHCO₃ ② Na₂CO₃

[解説]

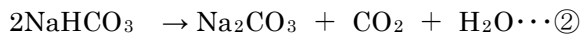
炭酸水素ナトリウム(NaHCO₃)を加熱すると、炭酸ナトリウム(Na₂CO₃)と二酸化炭素(CO₂)と水(H₂O)ができる。NaHCO₃ → Na₂CO₃ + CO₂ + H₂O…①

Na : 左辺 1 個, 右辺 2 個で数が合わない。H : 左辺 1 個, 右辺 2 個で数が合わない。

C : 左辺 1 個, 右辺 1+1=2 個で, 数が合わない。O : 左辺 3 個, 右辺 3+2+1=6 個で数が合わない。C や O は右辺の複数箇所が使われているので, まず Na か H の係数

を合わせる。

Naの係数を合わせるために、①左辺のNaHCO₃を2倍して、



Na：左辺2，右辺2個で数が合う。H：左辺2個，右辺2個で数が合う。

C：左辺2個，右辺1+1=2個で数が合う。O：左辺2×3=6個，右辺3+2+1=6個で数が合う。

[水の発生]

[問題]

乾いた試験管Aに炭酸水素ナトリウムを入れ、図のように弱火で加熱したところ、試験管Aの口には液体Xがついた。

- (1) 液体Xは何か。
- (2) 液体Xを青色の塩化コバルト紙につけると、色が変わった。青色の塩化コバルト紙は何色に変化したか。

[黄色 白色 赤色 緑色]

(栃木県)(鳥取県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

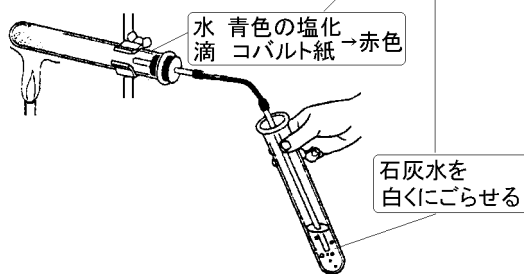
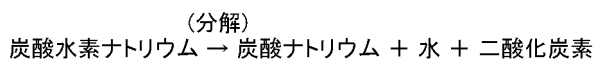
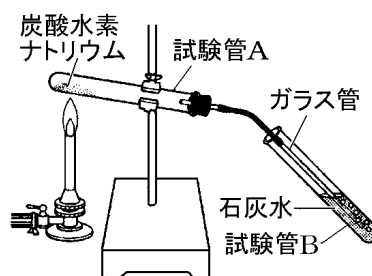
[解答](1) 水 (2) 赤色

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、「炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+二酸化炭素+水」の分解反応が起こる。

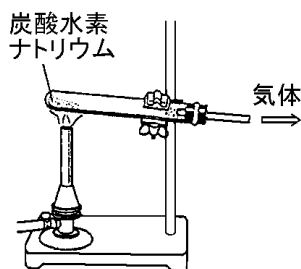
発生した水(水蒸気)は試験管の口付近で冷えて液体(水滴)になり付着する。水であることを確認するためには塩化コバルト紙を使う。

水にふれると青色の塩化コバルト紙は赤色に変化する。



[問題]

図の実験装置に炭酸水素ナトリウムを入れて加熱したところ、試験管の内側には、液体がついた。青色の塩化コバルト紙を試験管の内側についた液体につけたところ、塩化コバルト紙が桃色になった。この液体は何か。答えよ。



(沖縄県)(長崎県)

[解答欄]

[解答]水

[問題]

試験管に入れた炭酸水素ナトリウムを加熱した、試験管の口近くの内側に液体がついていたので、試験管のゴム栓をはずし、その液体に乾いた塩化コバルト紙をつけたところ、塩化コバルト紙の色が変化した。塩化コバルト紙の色の変化から、試験管の口近くの内側についた液体が水であることがわかった。このとき塩化コバルト紙は何色から何色に変化したのか、書け。

(三重県)

[解答欄]

[解答]青色から赤色

[問題]

炭酸水素ナトリウムの白い粉末を乾いた試験管に入れ、試験管の口を少し下げて、弱い火で加熱すると、試験管の口付近の内側には液体がついているのが観察された。Sさんは、この液体が水ではないかと予想した。次のうち、水であることを確かめるために用いるのに最も適しているものはどれか。[塩化コバルト紙 リトマス紙 酢酸オルセイン液 BTB 溶液]

(大阪府)(長崎県)

[解答欄]

[解答]塩化コバルト紙

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱し、分解してできた液体が水であることを確かめるためには、どのような方法で調べればよいか。簡潔に書け。

(広島県)

[解答欄]

[解答]青色の塩化コバルト紙をつけて赤色になることを確認する。

[二酸化炭素の発生]

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱したときに発生した気体に()を入れてよくふると白くにごったことから、この気体は二酸化炭素であることがわかった。

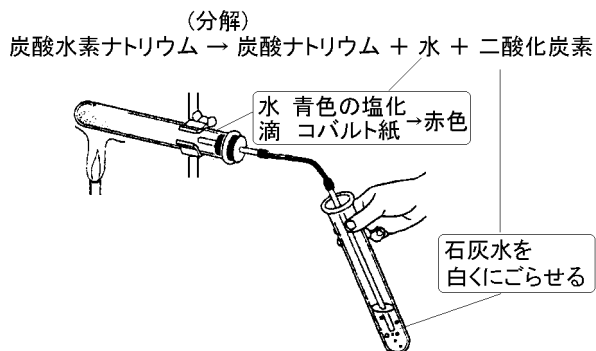
(兵庫県)

[解答欄]

[解答]石灰水

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、「炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+二酸化炭素+水」の分解反応が起こる。炭酸水素ナトリウムの分解で発生した二酸化炭素(CO₂)は石灰水せっかいすいを使って確認する。二酸化炭素を石灰水の中に通すと、石灰水は白くにごる。



[問題]

炭酸水素ナトリウムの粉末を加熱し、発生する気体を集気びんに集めた。この気体を確認する方法とその結果が正しいものは、次のどれか。

- ア 火のついた線香を近づけると、炎をあげて燃える。
- イ マッチの火を近づけると、爆発して燃える。
- ウ 石灰水を入れてよく振ると、白く濁る。
- エ 手であおぐようにしてにおいをかぐと、刺激臭がする。

(長崎県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

ウ：石灰水を入れてよく振ると、白く濁るのは二酸化炭素(CO₂)。二酸化炭素は水に少しとけ、水にとけると炭酸になり酸性を示す。石灰水は水酸化カルシウム(Ca(OH)₂)が水にとけたものでアルカリ性である。石灰水に二酸化炭素を通すと、 $\text{CO}_2 + \text{Ca(OH)}_2 \rightarrow \text{CaCO}_3 + \text{H}_2\text{O}$ の中和反応が起こるが、CaCO₃(炭酸カルシウム)は水にとけないうために白くにごる。

ア：火のついた線香を近づけると、炎をあげて燃えるのは酸素。イ：マッチの火を近づけると、爆発して燃えるのは水素。エ：刺激臭があるのはアンモニア。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱したところ気体が発生した。発生した気体の説明として最も適当なものを、次のア～エから1つ選び記号で答えよ。

- ア 空気より軽く、火を近づけると激しい爆発を起こす。
- イ 激しく鼻をさすような特有のにおいである。
- ウ 空気より重く、水に少し溶けて酸性を示す。
- エ 水にわずかしか溶けず、物質を燃やすはたらきがある。

(沖縄県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

アは水素。イはアンモニア。ウは二酸化炭素。エは酸素。

[問題]

試験管内で炭酸水素ナトリウムを加熱した。加熱後の試験管の内側についた水を調べると酸性であった。このことについて、Aさんは、加熱後試験管に残った白い固体の物質が混じったからだと考えた。①この考えは、適切か適切でないかを書き、②そのように判断した理由と、③水が酸性になった理由について考えられることを書け。

(兵庫県)

[解答欄]

①
②
③

[解答]① 適切でない ② 加熱後の固体は水にとけるとアルカリ性を示すから。③ 発生した二酸化炭素が水にとけたから。

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸ナトリウムは分解反応をおこし、水と二酸化炭素と炭酸ナトリウムができる。水は試験管の口の部分に付着する。発生した二酸化炭素がこの水にとけて炭酸になり酸性を示したものと考えられる。試験管の中にできる炭酸ナトリウムは水にとけるとアルカリ性を示す。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱したところ気体が発生した。発生した気体を水に溶かして水溶液をつくった。その水溶液に緑色の BTB 溶液を 1 滴加えた後、うすい水酸化ナトリウム水溶液を少しずつ加えていき、色の変化を観察した。水溶液の色の変化について最も適当なものを、次のア～エから 1 つ選び記号で答えよ。

ア 黄→緑→青 イ 青→緑→黄 ウ 青色が濃くなる エ 黄色が濃くなる

(沖縄県)

[解答欄]

--

[解答]ア

[解説]

BTB 溶液は酸性では黄色、アルカリ性では青色、中性では緑色になる。炭酸水素ナトリウムの加熱によって発生した二酸化炭素は、水にとけると炭酸になって酸性を示す。したがって、BTB 溶液は黄色になる。水酸化ナトリウム水溶液はアルカリ性なので、少し

ずつ加えていくと中和反応が起こり、やがて中性になって緑色になる。さらに水酸化ナトリウム水溶液を加えていくとアルカリ性になって青色に変化する。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱したときに発生した気体を集めた試験管に石灰水を入れ、ゴムせんをしてよく振ると、石灰水が白くにごった。このことから、炭酸水素ナトリウムに含まれていると判断できる原子は何か。その原子の記号をすべて書け。

(北海道)(広島県)

[解答欄]

[解答]C, O

[解説]

石灰水が白くにごったことから、炭酸水素ナトリウムが分解して発生した気体は二酸化炭素であることがわかる。二酸化炭素(CO₂)を構成するC(炭素原子)とO(酸素原子)は、もともと炭酸水素ナトリウムに含まれていたものである。参考までに、炭酸水素ナトリウムの分解の化学反応式を示すと、 $2\text{NaHCO}_3 \rightarrow \text{Na}_2\text{CO}_3 + \text{H}_2\text{O} + \text{CO}_2$ となる。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを試験管に入れて加熱すると気体が発生した。この気体の化学式を書け。

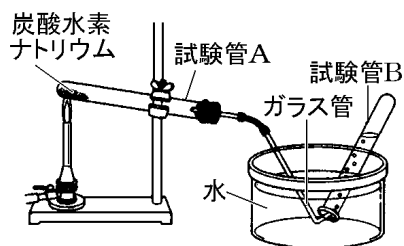
(鳥取県)

[解答欄]

[解答]CO₂

[問題]

図のように、炭酸水素ナトリウムを乾いた試験管 A に入れて加熱し、発生する気体を試験管 B に導いた。しばらくすると、試験管 B に気体が集まり、試験管 A の口の方に液体が見られた。その後、気体が出なくなってから、加熱をやめた。試験管 A には、白い粉が残った。このことに関して、次の問いに答えよ。



- (1) 青色の塩化コバルト紙を、試験管 A の口の方に見られた液体につけると赤色に変わった。また、石灰水を、試験管 B に集めた気体に加えてよくふったところ、白く濁った。このことから、炭酸水素ナトリウムには、ナトリウム以外に 3 種類の原子が含まれていることが分かる。その原子をそれぞれ原子の記号を用いて書け。
- (2) 図のようにして気体を集める方法を何というか。その用語を書け。

(新潟県)(福岡県)

[解答欄]

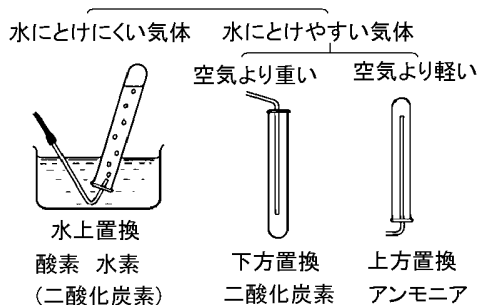
(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) H, C, O (2) 水上置換

[解説]

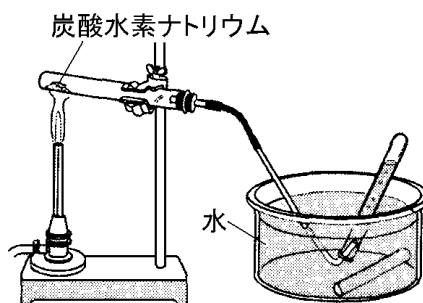
(1) 塩化コバルト紙を赤色に変える液体は水(H₂O)である。炭酸水を白くにごらせる気体は二酸化炭素(CO₂)である。H₂OやCO₂を構成するH(水素原子)・C(炭素原子)・O(酸素原子)は、もともと炭酸水素ナトリウムに含まれていたものである。

(2) 気体を集める方法には、水上置換・上方置換・下方置換がある。この 3 つのうち、水上置換がもっともすぐれており、水にとけない気体は水上置換で集める。水上置換の場合、集気びんの中は最初水に満たされているが、発生した気体が入ってくると、気体は水をおしのけてびんの上部にたまる。空気などがほとんど混じらず、たまった気体の量が一目で分かるという利点がある。二酸化炭素は少し水にとけ、空気より重いので下方置換で集める。ただ、二酸化炭素の場合は水に少しとけるだけなので水上置換で集めることもできる。水上置換法では得られる気体の量が減るといふ欠点はあるが、純粋な二酸化炭素を集めることができる利点がある。



[問題]

図のような装置で、炭酸水素ナトリウムを試験管に入れて加熱した。ガラス管から出てきた気体を2本の試験管に集めてから、1本目は気体を入れなおした。気体の発生がとまったところで、ガラス管を水から出して、ガスバーナーの火を消した。加熱した試験管の内側には液体がつき、底には白い固体が残った。また、気体を集めた試験管に石灰水を入れて、よくふったところ、2本とも白くにごるのが確認できた。



- (1) 1本目の試験管に集めた気体を入れなおしたのはなぜか、書け。
- (2) 発生した、石灰水を白くにごらせる気体と同じ気体を発生させる方法は次のどれか、2つ選んで記号を書け。
- ア 貝殻に塩酸を加える
 - イ 二酸化マンガんにオキシドールを加える
 - ウ 鉄くぎに塩酸を加える
 - エ 湯の中に発泡入浴剤を入れる
 - オ 水酸化カルシウムと塩化アンモニウムを混ぜて熱する

(秋田県)

[解答欄]

(1)

(2)

[解答](1) 最初に出てきた気体には、加熱した試験管の中の空気が多く含まれているから

(2) ア、エ

[解説]

石灰水を白くにごらせる気体は二酸化炭素である。二酸化炭素を発生させる方法としては、①炭酸水素ナトリウムの加熱、②石灰石にうすい塩酸を加える(石灰石のかわりに貝殻、卵の殻、大理石を使うこともできる)、③湯の中に発泡入浴剤を入れるなどがある。イ：二酸化マンガんにオキシドールを加えると酸素が発生する。ウ：鉄くぎに塩酸を加えると水素が発生する。オ：水酸化カルシウムと塩化アンモニウムを混ぜて熱するとアンモニアが発生する。

[問題]

カルメ焼きやホットケーキをふくらませるために、炭酸水素ナトリウムを用いる理由を、炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化に着目して、簡潔に書け。

(岐阜県)(群馬県)(福岡県)

[解答欄]

--

[解答]加熱すると二酸化炭素が発生して、ホットケーキなどをふくらませることができるから。

[解説]

炭酸水素ナトリウムは別名じゅうそう重曹(ふくらし粉)として市販されている。ホットケーキなどを焼くときに使われる。これは、加熱すると二酸化炭素が発生して、ホットケーキなどをふくらますことができるからである。

[問題]

化合物である炭酸水素ナトリウムを加熱すると、気体が発生し加熱する前とは異なる固体と液体とができたことが分かった。このように1種類の物質が2種類以上の物質に分かれる化学変化は①()と呼ばれている。ホットケーキを作ったときにも同じ化学変化が起こり、発生した②(酸素/水素/窒素/二酸化炭素)がホットケーキをふくらませたと考えられる。

(大阪府)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① 分解 ② 二酸化炭素

[問題]

炭酸水素ナトリウムをステンレス皿にのせ、全体の質量を電子てんびんで測定した後5分間加熱した。ステンレス皿が十分に冷えてから、加熱後の質量を測定した。①加熱後の質量は、加熱前の質量と比べてどうなったと考えられるか、最も適当なものを下のア～ウから1つ選び、その記号を書け。②また、そう考えたのはなぜか、理由を書け。
ア 加熱後に測定した質量は、加熱前に測定した質量と同じであった。
イ 加熱後に測定した質量は、加熱前に測定した質量より大きくなった。
ウ 加熱後に測定した質量は、加熱前に測定した質量より小さくなった。

(三重県)

[解答欄]

①	②
---	---

[解答]① ウ ② 炭酸水素ナトリウムが分解してできた気体が空気中に逃げたため。

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+二酸化炭素+水 の分解反応が起こる。二酸化炭素と水(水蒸気)は空気中に逃げていくので、その分だけ質量が減少する。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱した後にできる物質の質量は、もとの炭酸水素ナトリウムの質量より小さくなる。その理由を、このとき起こった化学変化をもとに書け。

(埼玉県)

[解答欄]

--

[解答]炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸ナトリウム・二酸化炭素・水(水蒸気)に分解されるが、二酸化炭素と水蒸気は空気中に逃げるので、その分だけ質量が小さくなるから。

[問題]

ステンレス皿に炭酸水素ナトリウムを入れ、ガスバーナーの炎で加熱する実験を行い、加熱前と加熱後のステンレス皿の上の物質の質量を測定した。加熱後のステンレス皿の上の物質に、炭酸水素ナトリウムが含まれていないことは、どうすれば確かめられるか。その方法の1つについて述べた次の文の()に適することばを書け。

加熱をくりかえしても、ステンレス皿の上の物質の質量が()ことから確かめられる。

(岡山県)

[解答欄]

--

[解答]減少しなくなる

[解説]

ステンレス皿に炭酸水素ナトリウムを入れ、ガスバーナーの炎で加熱してさました後に質量を測定すると、分解によって発生した二酸化炭素と水(水蒸気)の分だけ質量が減少することがわかる。さらに、「加熱→質量の測定」をくり返していくと、やがて、質量が減少しなくなる。これは、炭酸水素ナトリウムが完全に分解されて、それ以上反応が起こらなくなったためである。この操作によって、反応が完全に行われて炭酸水素ナトリウムが残っていないことを確認することができる。

[炭酸ナトリウムの生成]

[問題]

右の図のように、炭酸水素ナトリウムを乾いた試験管 A に入れて加熱した。加熱後、試験管 A に残った白い粉を少量とり、水に溶かしてフェノールフタレイン溶液を加えると濃い赤色に変わった。この白い粉は何か。その物質の名称を書け。

(新潟県)

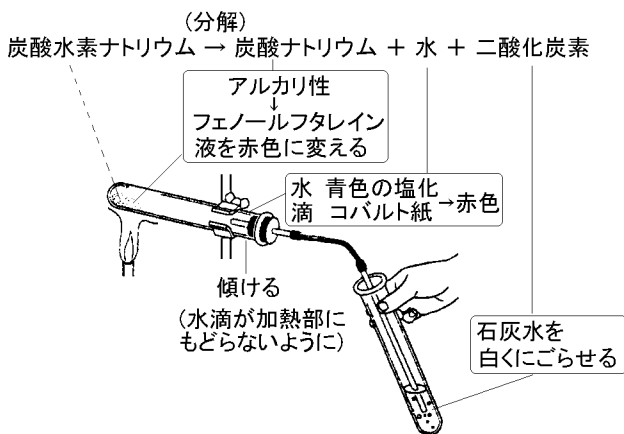
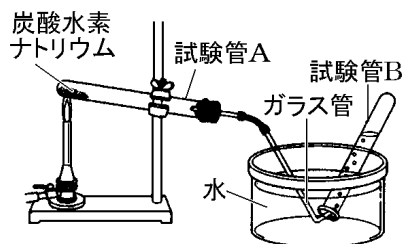
[解答欄]

[解答]炭酸ナトリウム

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+二酸化炭素+水 の分解反応が起こる。

試験管の加熱部分では、炭酸水素ナトリウムが炭酸ナトリウムという白い物質に変化して残る。炭酸ナトリウムは水によくとける。また、炭酸ナトリウムはアルカリ性であるため、フェノールフタレイン液をあざやかな赤色に変える。



[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、試験管には白い物質が残る。この物質の水溶液にフェノールフタレイン液を加えると、こい赤色に変わる。この水溶液は何性とわかるか。

(岐阜県)

[解答欄]

[解答]アルカリ性

[問題]

炭酸水素ナトリウムと、炭酸水素ナトリウムを熱したあとの試験管に残った白い固体が別の物質であることを確かめるために、それぞれの物質を同じ質量とり、別の試験管に入れ同じ体積の水を加えて水溶液をつくった。これらの水溶液にフェノールフタレイン溶液を 2~3 滴ずつ加えると、それぞれの水溶液の色はどのようになるか。次のア~エから 1 つ選んで、その記号を書け。

ア 両方とも赤色になり、炭酸水素ナトリウムの水溶液の方が色が濃い。

イ 両方とも赤色になり、試験管に残った固体の水溶液の方が色が濃い。

ウ 両方とも青色になり、炭酸水素ナトリウムの水溶液の方が色が濃い。

エ 両方とも青色になり、試験管に残った固体の水溶液の方が色が濃い。

(香川県)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

試験管の加熱部分では、炭酸水素ナトリウムが炭酸ナトリウムという別の物質に変化して残る。炭酸水素ナトリウムは水に少ししかとけないが、炭酸ナトリウムはよくとける。また、炭酸ナトリウムはアルカリ性であるため、フェノールフタレイン液をあざやかな赤色に変える。加熱前の炭酸水素ナトリウムもアルカリ性であるが、弱いアルカリ性なのでフェノールフタレイン液をわずかに赤くする程度である。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、試験管には白い物質が残る。次のうち、試験管内に残った白い物質をとかしてできた水溶液と炭酸水素ナトリウム水溶液との性質の違いについて述べた文として正しいものはどれか。1つ選び、記号を書け。

- ア 炭酸水素ナトリウム水溶液に比べて白い物質をとかしてできた水溶液の方が酸性が強い。
- イ 白い物質をとかしてできた水溶液に比べて炭酸水素ナトリウム水溶液の方が酸性が強い。
- ウ 炭酸水素ナトリウム水溶液に比べて白い物質をとかしてできた水溶液の方がアルカリ性が強い。
- エ 白い物質をとかしてできた水溶液に比べて炭酸水素ナトリウム水溶液の方がアルカリ性が強い。

(大阪府)

[解答欄]

[解答]ウ

[問題]

2本の試験管に同じ質量の炭酸水素ナトリウムを入れた後、一方の試験管を加熱した。加熱後、それぞれの試験管に同じ体積の水を入れ、中の物質を溶かした後、フェノールフタレイン液を2滴ずつ加えた。色を比較したところ、加熱後の物質の水溶液はこい赤色であったが、加熱しなかった炭酸水素ナトリウムの水溶液はうすい赤色であった。加熱後の物質の水溶液の性質は、加熱しなかった炭酸水素ナトリウムの水溶液の性質と比較して、どのような違いがあるか。簡潔に書け。

(山口県)

[解答欄]

[解答]アルカリ性が強くなっている。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを試験管に入れて加熱した。炭酸水素ナトリウムと加熱後に試験管に残った白い物質とが、別の物質であることを調べる方法をひとつ書け。

(鳥取県)

[解答欄]

[解答]水にとかしフェノールフタレイン溶液を加えて色の濃さの違いを見る。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを試験管内で加熱したあと、試験管に残った白い固体の物質が、炭酸水素ナトリウムと異なる物質であることを確かめるために使う試薬は、次のどちらか。

[フェノールフタレイン溶液, ベネジクト溶液]

(東京都)

[解答欄]

[解答]フェノールフタレイン溶液

[問題]

炭酸水素ナトリウムを溶かした水溶液にフェノールフタレイン液を加えると、水溶液の色は(うすい赤色になる／無色のままである)。

(熊本県)

[解答欄]

[解答]うすい赤色になる

[問題]

炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの水への溶け方の違いについて書け。

(富山県)

[解答欄]

[解答]炭酸水素ナトリウムは水に溶けにくく、炭酸ナトリウムは水に溶けやすい。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化を調べた。炭酸水素ナトリウムを加熱したところ、試験管には固体が残った。この固体の色を、次から1つ選べ。

[白 赤 黒 黄]

(福岡県)

[解答欄]

[解答]白

[実験方法など]

[問題]

図のように、かわいた試験管に炭酸水素ナトリウムを入れて熱する実験を行った。この実験で試験管を熱するとき、熱する試験管の口を底よりもわずかに下げている。それはなぜか。その理由を簡単に書け。

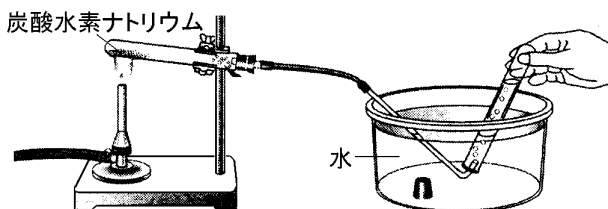
(岐阜県)(香川県)

[解答欄]

[解答]出てきた水が試験管の底のほうに流れると、試験管が割れることがあるから。

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+二酸化炭素+水 の分解反応が起こる。発生した水(水蒸気)は試験管の口付近で冷えて液体(水滴)になり付着する。試験管の口の方がやや下になるようにして実験を行うが、これは、水滴が試験管の加熱部分に戻ると試験管が割れるおそれがあるからである。



[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱する実験では、試験管の口を少し下げてとりつける必要がある。これは、炭酸水素ナトリウムを加熱したときに発生する物質の1つが試験管の底にもどるのを防ぐためである。この物質は何か。書け。

(山口県)

[解答欄]

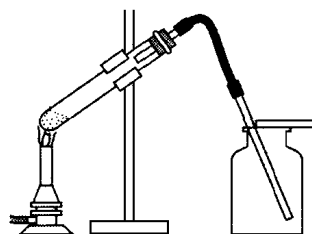
[解答]水

[問題]

炭酸水素ナトリウムを試験管に入れて加熱する場合、図のようにすると危険である。どのように改めればよいか、簡単に書け。

(長崎県)

[解答欄]



[解答]試験管の口を底よりも低くする。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを入れた試験管を加熱する実験で、加熱をやめるときは、ガラス管の先を水そうからぬいておかなければならない。その理由は何か、書け。

(徳島県)(栃木県)(新潟県)

[解答欄]

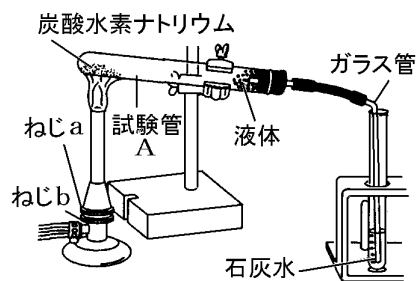
[解答]水そうの水が試験管の中に逆流して試験管が割れるのをふせぐため。

[解説]

炭酸水素ナトリウムを入れた試験管を加熱する実験で、加熱をやめるときは、ガラス管の先を水そうからぬいておかなければならない。先に火を消すと、炭酸水素ナトリウムの加熱によって発生した水蒸気(水)が冷えて水滴(液体)となるために試験管内の気圧が減少し、水そうの水が試験管の中に逆流して試験管が割れるおそれがあるからである。

[問題]

図のような装置を用いて、炭酸水素ナトリウムを加熱した。下のア～ウは、この実験で、加熱をやめるときの操作の一部である。ア～ウを安全に留意した正しい操作の順に並べ、記号で答えよ。



- ア ねじ a をしめる。
- イ ねじ b をしめる。
- ウ ガラス管を石灰水からぬく。

(福岡県)

[解答欄]

[解答]ウ→ア→イ

[解説]

先にガラス管を石灰水からぬいておく。ガスバーナーの火を消す手順は、まず空気調節ねじ(a)を閉めて、次にガス調節ねじ(b)を閉める。ガス調節ねじを先に閉めると、ガスの量に対して空気の量が多くなりすぎ、炎の勢いが強くなりすぎてポツと音を出して消えてしまうことがある。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを入れた試験管をガスバーナーで加熱する実験を行った。実験終了後、気体が発生していないことを確認してからガスバーナーの火を消すが、その操作手順を、この操作を注意しながら行った理由とともに述べたものとして適切なのは、次のうちではどれか。

- ア 試験管に残っている固体の物質がすべり落ちて試験管の口が割れないようにするため、試験管の口の部分を底よりも高くする。その後、ガスバーナーのガス調節ねじを閉めて消火してから、空気調節ねじを閉めて、元栓を閉める。
- イ 試験管に残っている固体の物質がすべり落ちて試験管の口が割れないようにするため、試験管の口の部分を底よりも高くする。その後、ガスバーナーの空気調節ねじを閉めてから、ガス調節ねじを閉めて消火し、元栓を閉める。
- ウ ビーカーの中の石灰水が試験管の中に流れ込み、試験管が割れないようにするため、ガラス管の先を石灰水の中から取り出す。その後、ガスバーナーのガス調節ねじを閉めて消火してから、空気調節ねじを閉めて、元栓を閉める。

エ ビーカーの中の石灰水が試験管の中に流れ込み、試験管が割れないようにするため、ガラス管の先を石灰水の中から取り出す。その後、ガスバーナーの空気調節ねじを閉めてから、ガス調節ねじを閉めて消火し、元栓を閉める。

(東京都)

[解答欄]

[解答]エ

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱する実験では、ガラス管の先を水そうに入れたまま加熱をやめると、水そうの水が加熱した試験管に流れ込み、試験管が割れることがあるので、ガラス管を水から出して加熱をやめなければならない。このとき、水が試験管に流れ込むのと同じ理由によって起こる現象は、次のア～エの文のうちどれか、適切なものを選んで、その符号を書け。

ア 天気がよい日は、洗たく物がよくかわく。

イ 水のいっぱい入ったやかんを火にかけると、沸とうしたときに湯があふれ出す。

ウ 熱い汁をおわんに入れふたをしてしばらくすると、ふたがとれにくくなることがある。

エ アルコールランプのしんに火をつけると、ランプ内のアルコールがしんを伝って上がってくる。

(兵庫県)

[解答欄]

[解答]ウ

[解説]

ガラス管の先を水そうに入れたまま加熱をやめると、炭酸水素ナトリウムの加熱によって発生した水蒸気(水)が冷えて水滴(液体)となるために試験管内の気圧が減少し、水そうの水が試験管の中に逆流する。これと同じ理由によっておこる現象はウである。熱い汁をおわんに入れふたをしてしばらくすると、おわんの中の水蒸気(気体)が冷えて水(液体)になるので、おわんの中の気圧が減少してふたがとれにくくなる。

[問題]

炭酸水素ナトリウムをかわいた試験管 A に入れ加熱した。加熱直後から、出てきた気体を水上置換法で試験管 A にいっぱいになるまで集め、続いて試験管 B にも気体をいっぱいになるまで集めた。炭酸水素ナトリウムの加熱によって発生した気体を調べるとき、試験管 A に集めた気体を使わないのはなぜか。その理由を、「試験管 A の中には、」という書き出しに続けて簡単に書け。

(愛媛県)

[解答欄]

[解答] 試験管 A の中には、空気が多く含まれているから。

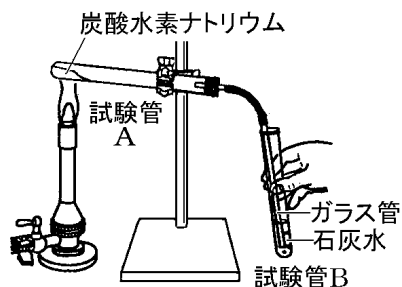
[全般]

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化について調べるために、次の実験を行った。後の問いに答えよ。

[実験]

- (a) 炭酸水素ナトリウムを試験管 A にとり、図のようにガスバーナーで加熱して、発生する気体を試験管 B の石灰水に通したところ、石灰水は白くにごった。
- (b) しばらくすると気体が発生しなくなったので、ガラス管を石灰水から抜いて加熱するのをやめた。A の内側には無色透明の液体がつき、底には白色の物質が残った。
- (c) A の内側についた無色透明の液体に、塩化コバルト紙をつけたところ、赤色(桃色)に変化した。
- (d) 加熱後に A の底に残った白色の物質と、炭酸水素ナトリウムを、それぞれ別の試験管にとった。それらに水を加えて溶け方を観察した。次に、フェノールフタレイン溶液を加えて水溶液の色を観察した。下の表はそれらの結果をまとめたものである。



	加熱後に残った物質	炭酸水素ナトリウム
水への溶け方	よく溶けた	少し溶けた
水溶液の色	濃い赤色	うすい赤色

- (1) 図で、試験管 A の口を下げて加熱する理由を、危険防止の観点から、簡潔に書け。
- (2) 表に示された水溶液の色の観察結果から、それぞれの水溶液の性質の違いについてわかることを、簡潔に書け。

(3) 次の文中の①～④に当てはまる語を、それぞれ書け。

実験の(a)で石灰水が白くにごったことから(①)が発生し、実験の(c)で塩化コバルト紙の色が変化したことから(②)ができたことがわかる。また、実験の(d)の結果から、加熱後に残った白色の物質は、炭酸水素ナトリウムとは別の物質であることがわかり、これは(③)という物質と考えられる。これらのことから、炭酸水素ナトリウムは、加熱によって3種類の物質に分かれたと考えられる。このように、1種類の物質が2種類以上の物質に分かれる化学変化を(④)という。

(群馬県)

[解答欄]

(1)			
(2)			
(3)①	②	③	④

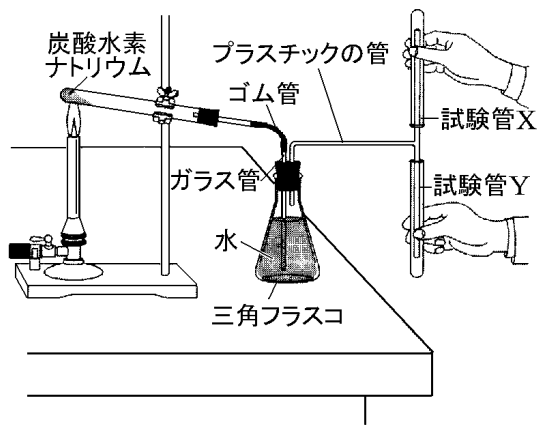
[解答](1) 試験管が割れるのを防止するため。(2) 加熱後に残った物質の水溶液は強いアルカリ性で、炭酸水素ナトリウムの水溶液は弱いアルカリ性である。(3)① 二酸化炭素 ② 水 ③ 炭酸ナトリウム ④ 分解

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると発生する気体の性質について調べるため、図のような装置を組み、次の①～④の手順で実験を行った。あとの問いに答えよ。

【実験】

- ① 試験管に炭酸水素ナトリウムを入れそれを加熱した。
- ② 気体が発生しなくなったところで、ゴム管を、三角フラスコにつながっているガラス管からはずし、加熱をやめた。
- ③ ②のあとすぐに、試験管 X と Y をプラスチックの管から静かに引き抜き、試験管 X と Y のそれぞれに、石灰水を少量入れてすばやく栓をした。
- ④ 試験管 X と Y をそれぞれよく振って、石灰水の変化を調べた。



(1) ②で、下線部のような操作を行ったのは、どのようなことを防ぐためか、書け。

- (2) ④のとき、試験管 X 内の石灰水は変化しなかったが、試験管 Y 内の石灰水は白くにごった。試験管 X 内の石灰水は変化しないで試験管 Y 内の石灰水だけが白くにごったのは、発生した気体がどのような性質をもっているためか、その性質を書け。
- (3) 加熱後の試験管内には白い固体が残った。
- 1) この白い固体は、炭酸水素ナトリウムが変化した物質である。この物質の名称を書け。
 - 2) この白い固体と炭酸水素ナトリウムが異なる物質であることを確かめるため、それぞれを少量とって別々の試験管に入れ同量の水に溶かし、フェノールフタレイン溶液を数滴ずつ加えて、その結果を観察した。結果に、どのような違いが見られるか、具体的に書け。

(山形県)

[解答欄]

(1)	
(2)	(3)1)
2)	

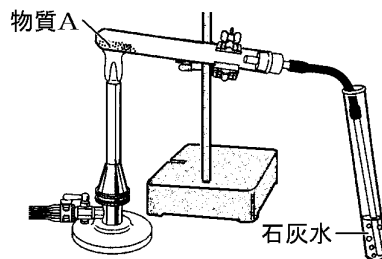
[解答](1) 水が試験管に逆流するのをふせぐため。 (2) 空気より重い性質 (3)1) 炭酸ナトリウム 2) 白い個体の水溶液はこい赤色になり、炭酸水素ナトリウム水溶液はうすい赤色になる。

[問題]

身のまわりの物質 A を使って、次の実験を行った。
各問いに答えよ。

【実験】

- ① 右図のように、物質 A をガスバーナーで十分に加熱したところ、加熱した試験管中に白い物質 B が生じた。また、加熱中、気体が発生し、その気体を石灰水に通したら、白くにごった。
- ② 物質 B が生じた試験管の口には液体ができていた。この液体に塩化コバルト紙をつけて色の変化を調べたら、液体は水であることがわかった。
- ③ 物質 A、物質 B をそれぞれ水の入った試験管に同量入れ、溶けるようすを観察したら、物質 A は一部溶けずに残り、物質 B はすべて溶けた。



④ ③でつくった物質 A, 物質 B それぞれの水溶液のうずみをとって、それぞれにフェノールフタレイン液を数滴ずつ入れたら、どちらも赤色になったが、こい赤色になったのは、物質 B のほうだった。

(1) 実験の②で、塩化コバルト紙は何色から何色に変化したか。最も適当なものを次の中から 1 つ選べ。

[黄色から青色 黄色から赤色 赤色から青色 赤色から黄色
青色から黄色 青色から赤色]

(2) 実験の④で、物質 B の水溶液の性質として正しいものを次の中から 1 つ選べ。

[酸性 中性 アルカリ性]

(3) 実験で、物質 A は、加熱により、気体、水、物質 B の 3 つに分かれた。このように、1 種類の物質が 2 種類以上の物質に分かれる化学変化を何というか、書け。

(4) 物質 A は何であると考えられるか。最も適当なものを、次の中から 1 つ選べ。

[重そう(炭酸水素ナトリウム) 食塩(塩化ナトリウム) 小麦粉 砂糖]

(佐賀県)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)	(4)
-----	-----	-----	-----

[解答](1) 青色から赤色 (2) アルカリ性 (3) 分解 (4) 重そう(炭酸水素ナトリウム)

[問題]

2 本のびん X, Y があり、この中には食塩、砂糖、炭酸水素ナトリウムのいずれか 1 種類が入っている。また、次の()は、びん X, Y の中の物質が何であるかを確かめるために行った実験とその結果である。びん X, Y の中の物質はそれぞれ何であると考えられるか。

[実験 1]

それぞれのびんから、アルミニウムはくをまいた金属製のスプーンに物質を取り出して、直接ガスバーナーで加熱した。びん X から取り出した物質は、徐々に茶色くなった。

[実験 2]

びん Y から、かわいた試験管に物質を取り出して加熱したところ、気体が発生し、その気体は二酸化炭素であった。また、試験管の内側に液体がついており、その液体は水であった。

(神奈川県)

[解答欄]

X :	Y :
-----	-----

[解答]X：砂糖 Y：炭酸水素ナトリウム

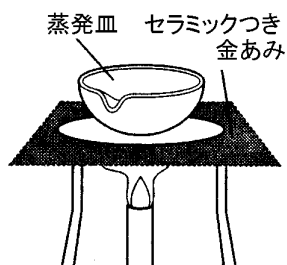
[解説]

金属製のスプーン上で加熱したとき、食塩を加熱しても変化は見られない。砂糖を加熱すると茶色になる。炭酸水素ナトリウムを加熱すると、白い固体(炭酸ナトリウム)が残る。したがって、Xは砂糖である。試験管内で炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸ナトリウムは、二酸化炭素と水と炭酸ナトリウムに分解される。したがって、Yは炭酸水素ナトリウムである。

[計算問題]

[問題]

質量 45.3g の蒸発皿に炭酸水素ナトリウム 2.2g を入れ、右図のように弱火で十分に加熱した。蒸発皿が冷えた後、全体の質量をはかったら 46.7g であった。質量 47.9g の蒸発皿に炭酸水素ナトリウム 4.4g を入れ、実験③と同様に弱火で十分に加熱すると、全体の質量は何gになるか。



(栃木県)

[解答欄]

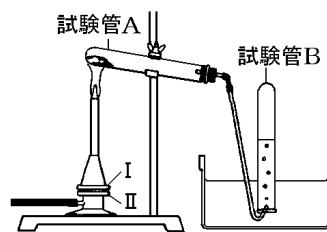
[解答]50.7g

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+二酸化炭素+水 の分解反応が起こる。発生した二酸化炭素と水(水蒸気)は空气中に逃げるので、その分だけ質量が減少する。質量 45.3g の蒸発皿に炭酸水素ナトリウム 2.2g を入れて十分に加熱すると 46.7g になるので、質量は $46.7 - (2.2 + 45.3) = 0.8(g)$ 減少する。炭酸水素ナトリウムの質量を 4.4g と 2 倍にすると、減少する質量も $0.8(g) \times 2 = 1.6(g)$ と 2 倍になる。蒸発皿の質量が 47.9g なので、全体では、 $4.4 + 47.9 - 1.6 = 50.7(g)$ となる。

[問題]

質量 20.7g のかわいた試験管 A に、炭酸水素ナトリウム 1.0g を入れ加熱をはじめた。ガラス管の先から出てきた気体を、水そうに入れた試験管 B に集めた。気体の発生が止まり反応が終わったところで、ガラス管を水そうからぬき加熱をやめた。試験管 A を傾けたままさし、その内側についている液体をふきとった後、試験管 A 全体の質量を測定したところ 21.3g であった。試験管 A に入れる炭酸水素ナトリウムの質量を 3.0g にして反応させたとき、液体をふきとった後の試験管 A 全体の質量はいくらになると考えられるか、求めよ。



(鳥取県)

[解答欄]

[解答]22.5g

[解説]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、炭酸水素ナトリウム→炭酸ナトリウム+二酸化炭素+水 の分解反応が起こり、発生した二酸化炭素と水(水蒸気)の分だけ質量が減少する。炭酸水素ナトリウム 1.0g を入れ加熱したときの質量の減少は、 $20.7+1.0-21.3=0.4(\text{g})$ である。炭酸水素ナトリウムの質量を 3 倍の 3.0g にすると、減少する質量も、 $0.4(\text{g})\times 3=1.2(\text{g})$ と 3 倍になる。したがって、加熱後の試験管 A 全体の質量は、 $20.7+3.0-1.2=22.5(\text{g})$ となる。

[問題]

炭酸水素ナトリウムを加熱すると、二酸化炭素、水、炭酸ナトリウムに分解する。あるクラスで、次の実験を行った。あとの問いに答えよ。

<実験 1>A 班は 5.0g, B 班は 10.0g, C 班は 15.0g, D 班は 20.0g, E 班は 25.0g の炭酸水素ナトリウムを蒸発皿にとり、図のようにガスバーナーで加熱し、よく冷やしてから、蒸発皿と加熱後の物質全体の質量をはかった。(※D 班は、加熱が不十分であった。)

<実験 2>各班で加熱後の物質をそれぞれ 2.0g はかりとり、10cm³の水を加えて溶け方を調べた。

		A 班	B 班	C 班	D 班	E 班
実験 1	蒸発皿の質量(g)	34.6	34.6	34.6	34.6	34.6
	炭酸水素ナトリウムの質量(g)	5.0	10.0	15.0	20.0	25.0
	蒸発皿と加熱後の物質全体の質量(g)	37.8	40.9	44.1	50.2	50.4
	加熱後の物質の質量(g)					
実験 2	水へのとけ方	溶けた	溶けた	溶けた	残った	溶けた

(1) 各班の加熱後の物質の質量を求め、炭酸水素ナトリウムの質量と加熱後の物質の質量の結果を右の図に点(●)で示せ。また、この結果をもとに、炭酸水素ナトリウムの質量と十分に加熱したときの加熱後の物質の質量の関係を表すグラフを書け。

(2) D 班は 20.0g の炭酸水素ナトリウムを使ってもう一度実験を行った。十分に加熱したとき、できる炭酸ナトリウムの質量は何 g になるか、次のア～オの中から最も適切なものを選べ。

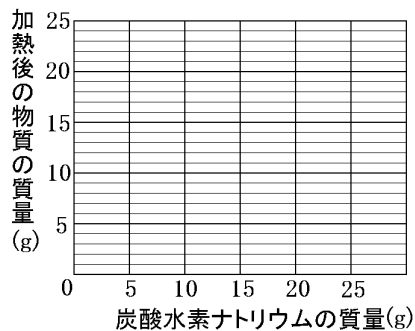
[6.3g 9.2g 12.6g 15.8g 23.2g]

(富山県)

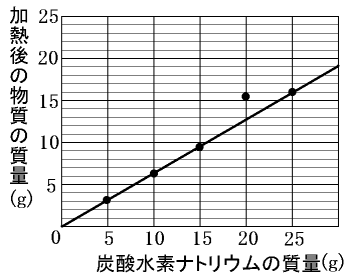
[解答欄]

(1)

(2)



[解答](1) (2) 12.6g



[解説]

(1) 加熱後の物質(炭酸ナトリウム)の質量は, A 班 : $37.8 - 34.6 = 3.2(\text{g})$, B 班 : $40.9 - 34.6 = 6.3(\text{g})$, C 班 : $44.1 - 34.6 = 9.5(\text{g})$, D 班 : $50.2 - 34.6 = 15.6(\text{g})$, E 班 : $50.4 - 34.6 = 15.8(\text{g})$ である。グラフに点を打って直線で結ぶと, D 班だけが直線から大きくはずれていることがわかる。

(2) 10.0g の炭酸水素ナトリウムを加熱したとき, 加熱後の質量は 6.3g なので, 20.0g の炭酸水素ナトリウムを加熱したときは, 加熱後の質量も 2 倍の $6.3(\text{g}) \times 2 = 12.6(\text{g})$ になる。

【】水の電気分解

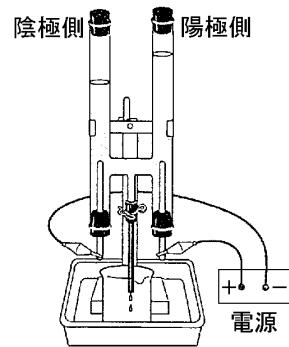
[発生する気体]

[問題]

図の実験装置に少量の水酸化ナトリウムを溶かした水を入れ電流を流すと、水が電気分解されて陽極と陰極、両方から気体が発生した。

(1) 両方の電極から発生した気体を調べる方法として最も適当な組み合わせを、次のア～エから 1 つ選び記号で答えよ。

	陽極	陰極
ア	火のついた線香を入れてみる	火のついた線香を入れてみる
イ	火のついたマッチを近づける	火のついたマッチを近づける
ウ	火のついた線香を入れてみる	火のついたマッチを近づける
エ	火のついたマッチを近づける	火のついた線香を入れてみる



- (2) この実験で発生した 2 つの気体のうち、陽極側から発生した気体を化学式で表せ。
 (3) 水を電気分解すると性質のちがう 2 つの気体が発生することから、水は 2 種類以上の原子からなることがわかる。水のように 2 種類以上の原子からなる物質を何というか。答えよ。

(沖縄県)

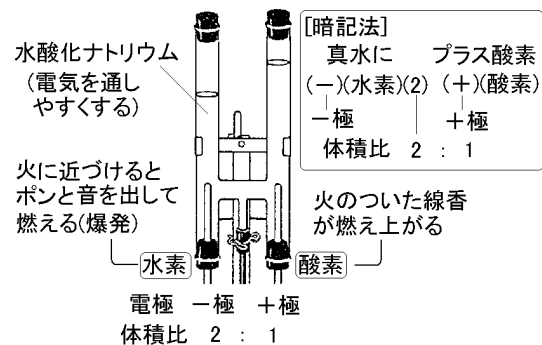
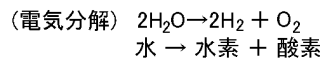
[解答欄]

(1)	(2)	(3)
-----	-----	-----

[解答](1) ウ (2) O₂ (3) 化合物

[解説]

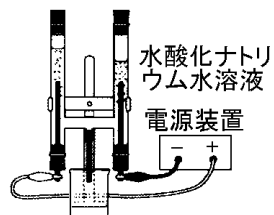
純粋な水は電気を通しにくい。電気を通しやすくするために水酸化ナトリウムをいれる。この水溶液に電気を流すと、水→水素+酸素の反応が起こり、水は水素と酸素に分解される。右図のように、-極では水素が、+極では酸素が発生する(参：右図[暗記法])。-極に発生した水素は自身自身が燃える性質をもっているのので、火のついたマッチを近づけるとボンという音



を出して燃える。+極に発生する酸素は、自分自身は燃えないが、ものが燃えるのを助ける性質(助燃性)がある。火のついた線香を近づけると、線香が炎をあげて燃え上がる。水を電気分解すると性質のちがう2つの気体が発生することから、水は2種類以上の原子からなることがわかる。水のように2種類以上の原子からなる物質を化合物という。

[問題]

電気分解装置に水酸化ナトリウム水溶液を入れ、右図のように電源装置をつないで電流を流した。実験の結果について、次の()に物質名を書き、文を完成させよ。



(①)が分解され、+極側では(②)が生じ、-極側では(③)が生じた。

(長崎県)

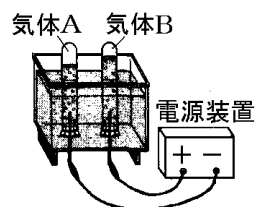
[解答欄]

①	②	③
---	---	---

[解答]① 水 ② 酸素 ③ 水素

[問題]

右図のように、水を電気分解するために、ある物質を水に加え、しばらく電流を流すと陰極(- (マイナス) 極)からは気体 A が、陽極(+ (プラス) 極)からは気体 B が発生した。



(1) 水を電気分解するために、水に加えたある物質は何か、最も適当なものを次から1つ選べ。

[砂糖 エタノール 水酸化ナトリウム デンプン]

(2) 水を電気分解したとき、発生した気体 A, B はそれぞれ何という気体か、その名称を書け。

(三重県)

[解答欄]

(1)	(2)A	B
-----	------	---

[解答](1) 水酸化ナトリウム (2)A 水素 B 酸素

[問題]

水の電気分解で+極側に集まった気体の性質として適切なものを、ア～オからすべて選び、記号で書け。

ア 無色の気体である。

イ 特有な刺激臭がある。

ウ ものを燃やすはたらきがある。 エ 火をつけると爆発して燃える。

オ 水に溶けやすい。

(大分県)

[解答欄]

--

[解答]ア, ウ

[解説]

+極に集まる気体は酸素である。酸素は無色・無臭の気体で、水にとけにくい。酸素自身は燃えないが、物質が燃えるのを助けるはたらき(助燃性)がある。

[問題]

うすい水酸化ナトリウム水溶液を電気分解装置に満たし、電流を流すと、水が電気分解され、気体 A、気体 B がそれぞれ発生した。

(1) 集まった気体 A の性質を調べた結果、気体 A は酸素であることが分かった。次のア～エのうち、酸素について述べたものとして最も適当なものを1つ選び、その記号を書け。

ア 水に非常によくとける気体である。

イ 鼻をさす特有のにおいがある。

ウ 炎をあげて燃える気体である。

エ 物質を燃やすはたらきがある。

(2) 集まった気体 B に火のついたマッチを近づけると、ポンという音を立てて気体 B が燃えた。気体 B が燃えてできた物質の化学式を書け。

(愛媛県)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) エ (2) H_2O

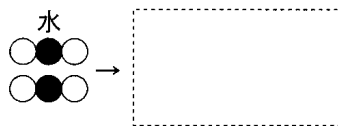
[解説]

(2) 気体Bは水素(H_2)で、水素が燃えると酸素(O_2)と反応して水(H_2O)ができる。その反応式は、 $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$ である。

[化学反応式]

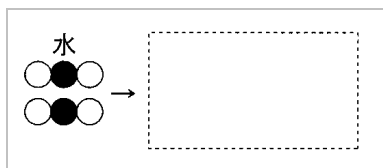
[問題]

右図は、水が酸素と水素に電気分解されたときの化学変化を、酸素原子を●、水素原子を○としてモデルで表そうとしたものである。図の[]に当てはまるモデルをかき、水が酸素と水素に分解されたときの化学変化を表す図を完成せよ。

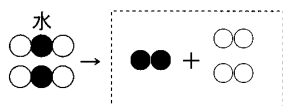


(鳥取県)(北海道)

[解答欄]



[解答]



[解説]

水に電気を通すと、電気エネルギーによって、水分子 2 個(●○ ○●)の中の酸素原子(●) 2 個が結びついて酸素分子(●●)ができる。また、水素原子(○) 4 個が 2 個ずつ結びついて水素分子(○○) 2 個ができる。

[問題]

水の電気分解の化学反応式を書け。

(大分県)

[解答欄]

[解答] $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2$

[解説]

水に電気を通すと、水 → 水素 + 酸素 の反応が起こり、水は水素と酸素に分解される。水は H_2O 、水素は H_2 、酸素は O_2 なので、まず、 $\text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{H}_2 + \text{O}_2 \cdots \textcircled{1}$ とおく。
H : 左辺は 2 個、右辺は 2 個で数が合う。
O : 左辺は 1 個、右辺が 2 個で、数が合わない。そこで、少ない方の①の左辺 H_2O を 2 倍して、 $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{H}_2 + \text{O}_2 \cdots \textcircled{2}$
 ②について、今度は **H** の数が合わなくなる(左辺 $2 \times 2 = 4$ 個、右辺 2 個)。そこで、少ない方の②の右辺の H_2 を 2 倍して、 $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2 \cdots \textcircled{3}$

すると、H : 左辺 $2 \times 2 = 4$ 個, 右辺 $2 \times 2 = 4$ 個で数が合う。O : 左辺 2 個, 右辺 2 個で数が合う。

[問題]

化学変化の前後で、物質全体の質量は変わらない。これを、(①)の法則という。この法則は、化学変化を原子と分子のモデルで表すことで説明できる。例えば、電気分解により水が水素と酸素に分解する反応において、反応前の水を 4 個の分子のモデルで表すと、反応後の水素と酸素は、水素分子(②)個と酸素分子(③)個の分子のモデルで表される。

(愛媛県)

[解答欄]

①	②	③
---	---	---

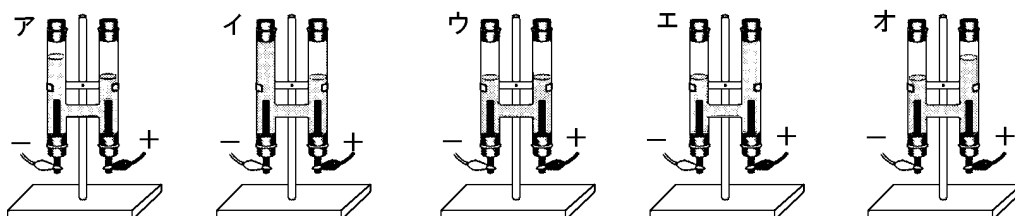
[解答]① 質量保存 ② 4 ③ 2

[解説]

水に電気を通すと、水 → 水素 + 酸素 の反応が起こり、水は水素と酸素に分解される。その反応式は、 $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2 \cdots \text{①}$ となる。この式より、
(水分子の個数) : (水素分子の個数) : (酸素分子の個数) = 2 : 2 : 1 となることが分かる。

[問題]

うすい水酸化ナトリウム水溶液を電気分解装置いっぱい満たして電気分解した。電気分解後の図はどれか。最も適当な図を次のア～オから選んで、その記号を書け。



(福井県)

[解答欄]

[解答]オ

[解説]

水を電気分解すると、 $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2$ の反応が起こり、水素分子(H_2)2 個と酸素分子(O_2)1 個ができる。気体の種類が異なっても、一定の体積の中の分子の数は同じ

であるので、発生する水素と酸素の体積比は、水素と酸素の分子数の比に等しくなり、
(水素の体積) : (酸素の体積) = (水素分子数) : (酸素分子数) = 2 : 1 となる。
水素は－極、酸素は＋極に発生するので、オのようになる。

[問題]

水の電気分解で集めた気体 A と気体 B の質量を測定すると、その質量の比は 1 : 8 であることがわかった。水 7.2g を電気分解したとき、発生する水素の質量は何 g か。

(岡山県)

[解答欄]

[解答] 0.8g

[解説] 水素は最も軽い気体であるので、質量の比は 1 : 8 の「1」が水素であると判断できる。

したがって、(水素の質量) = $7.2 \times \frac{1}{1+8} = 0.8(\text{g})$ となる。

[その他]

[問題]

電気分解で、水に水酸化ナトリウム水溶液を加えるのはなぜか。次のア～エのうち、その理由として最も適当なものを 1 つ選んで、その記号を書け。

- ア 発生した気体が水にとけないようにするため
- イ 水に色がつくようにするため
- ウ 気体以外の物質が発生しないようにするため
- エ 水に電流が流れるようにするため

(徳島県)

[解答欄]

[解答] エ

[解説]

純粋な水は電気を通しにくい。電気を通しやすくするために水酸化ナトリウムをいれる。

[問題]

水の電気分解の実験では、水に水酸化ナトリウムを加える。純粋な水(精製水)で電気分解を行わないのはなぜか。その理由を、「電流」という言葉を用い、「純粋な水は、」という書き出しに続けて簡単に書け。

(愛媛県)(大分県)

[解答欄]

[解答]純粋な水は、電流をほとんど通さないから。

[問題]

次のア～エの文は、水酸化ナトリウム水溶液の電気分解の実験において注意しなければならないことがらについて述べたものである。その内容が誤っているものはどれか。1つ選び、記号を書け。

- ア 電気分解装置に水酸化ナトリウム水溶液を入れるときは、管内に空気が残らないようにする。
- イ 水酸化ナトリウム水溶液が手についてしまったときは、あわてずに乾いたタオルでふく。
- ウ 電気分解装置に電流を流すときは、電源装置の電圧調整つまみを少しずつ回し、一度に大きな電流を流さないようにする。
- エ 実験の終了後、使い終わった水酸化ナトリウム水溶液は、そのまま捨てないようにする。

(大阪府)

[解答欄]

[解答]イ

[解説]

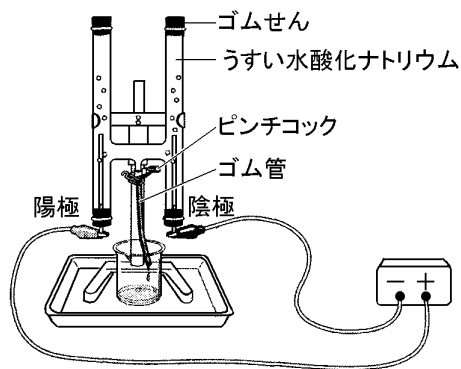
水酸化ナトリウムは強いアルカリ性を示し、皮ふにつくと皮がはがれてしまう。手についたときには、大量の水で洗い流す。タオルでふくだけでは不十分である。

[問題]

水の電気分解について、次の実験を行った。
これについて、あとの問いに答えよ。

[操作 1] 水に水酸化ナトリウムを少量加え、
うすい水酸化ナトリウム水溶液を準備した。

[操作 2] 右図のように、電気分解装置の中に
うすい水酸化ナトリウム水溶液を入れて電流を流したら、両方の電極で
気体が発生した。



(1) 操作 2 で、水ではなく、うすい水酸化ナトリウム水溶液を用いたのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のア～エから 1 つ選んで記号で答えよ。

- ア ゴムせんや電極を保護するため。
- イ 水に色をつけて観察しやすくするため。
- ウ 反応をゆるやかにするため。
- エ 電流を流れやすくするため。

(2) 操作 2 で、危険防止のため、電流を流す前に行わなければならないことを、図 1 中の器具の名称を用いて簡単に説明せよ。

(3) 操作 2 で、①陽極に発生した気体の名称と、②その確かめ方を簡単に答えよ。

(4) 操作 2 でみられるような、物質が分解する化学変化の例として最も適当なものを、次のア～エから 1 つ選んで記号で答えよ。

- ア ビーカーに水を入れ熱したら、たくさんの気泡が出てきた。
- イ 空気が入らないようにして木片を熱したら、燃える気体が出て木炭ができた。
- ウ 食塩水を蒸発皿に入れ熱したら、白い結晶が出てきた。
- エ 鉄と硫黄を混ぜ合わせ熱したら、光と熱が出て硫化鉄ができた。

(5) 操作 2 における水の化学変化を、化学反応式で表せ。

(島根県)

[解答欄]

(1)	(2)
(3)①	②
(4)	(5)

[解答](1) エ (2) ピンチコックを開ける。(3)① 酸素 ② 火のついた線香を入れると炎を出して燃える。(4) イ (5) $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2$

[解説]

(2) 最初ピンチコックは閉じておいて水酸化ナトリウム水溶液を入れる(開いたままだと、水酸化ナトリウム水溶液はビーカーに流れ落ちてしまう)。試験管に水酸化ナトリウム水溶液をいっぱい満たしてゴムせんをつける。次にピンチコックを開く。ゴムせんをしているので、水酸化ナトリウム水溶液はビーカーに流れ落ちない。ピンチコックを開いた後、電流を流す。電流を流すと電気分解が始まり、水が気体の水素と酸素に分解される。ピンチコックを開きわすれていると、ガラス管内の圧力が非常に大きくなって破裂するおそれがある。ピンチコックを開いていれば、発生した気体の体積分の水溶液が排出されるので破裂するおそれはない。電流を切ると、気体は発生しなくなるので、ピンチコックを閉じる。その後、ゴム栓を開いて、発生した気体の性質を調べる。

(4) アは状態変化(液体→気体)で化学変化ではない。

イは有機物である木片(炭素・水素・酸素の化合物)が炭素などに分解する反応である。

ウは食塩水にとけていた食塩が結晶としてでてきただけで、化学変化ではない。

エは、鉄+硫黄→硫化鉄 の化学変化で化合の反応である。

[印刷/他のPDFファイルについて]

※ このファイルは、FdData 入試理科(16,200 円)の一部を PDF 形式に変換したサンプルで、印刷はできないようになっています。製品版の FdData 入試理科は Word の文書ファイルで、印刷・編集を自由に行うことができます。

※FdData入試理科・入試社会全分野のPDFファイル, FdData中間期末(社会・理科・数学)全分野のPDFファイル, および製品版の購入方法は<http://www.fdtex.com/dan/> に掲載しております。

下図のような, [FdData 無料閲覧ソフト(RunFdData2)]を, Windows のデスクトップ上にインストールすれば, FdData 中間期末・FdData 入試の全 PDF ファイル(各教科約 1800 ページ以上)を自由に閲覧できます。次のリンクを左クリックするとインストールが開始されます。

RunFdData 【 <http://fddata.deci.jp/lnk/instRunFdDataWDs.exe> 】

※ダイアログが表示されたら, 【実行】ボタンを左クリックしてください。インストール中, いくつかの警告が出ますが, [実行][許可する][次へ]等を選択します。

【イメージ画像】



【Fd教材開発 : URL <http://www.fdtex.com/dat/> Tel (092) 404-2266】